

大 阪 市 中 教 研 会 報

No. 135

編集者 大阪市立中学校教育研究会
 発行人 大阪市立中学校教育研究会
 会長 井 寄 芳 春
 発行所 大阪市立中学校教育研究会
 大 阪 市 立 横 堤 中 学 校
 TEL 6911 - 1361

令和 2 年度 研究テーマ

「よりよい未来の創り手となる資質・能力の育成」

～ 学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して ～



with コロナ時代の「学びの保障」

大阪市教育局 事務局
 指導部初等・中学校教育担当

首席指導主事 福 山 英 利

大阪市立中学校教育研究会におかれましては、平素より、本市教育の推進に多大なるお力添えを賜り、誠にありがとうございます。

会員の先生方におかれましては、各教科・領域での理論の構築と教育内容の調査・研究ならびに授業実践等に取り組まれるとともに、新学習指導要領の全面実施を見据えた研究活動を推進され、本市中学校教育の充実・発展に大きな役割を果たしていただいております。改めて、これまでのご功績に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

本年度は、「新型コロナウイルス感染症」の影響で、誰もが先を見通せず、経験のしたことのない状況から始まり、現在に至っております。学校現場の先生方におかれましては、臨時休業期間中の対応のみならず、感染拡大防止対策を最大限に講じながらの学校再開に際し、日々、ご対応とご苦勞をいただいていることに、改めて、感謝申し上げます。

教育委員会といたしましては、6月1日からの学校再開にあたり、感染症対策を講じながら最大限子どもたちの健やかな学びを保障することをめざし、おもな方向性を次のように示しております。

① 教育課程の編成について、児童生徒や教員の負担軽減にも配慮しながら、学習指導要領に定める内容が効果的に指導できるよう、個人でも実施可能な学習活動の一部を授業以外の場において行うことなどにより、学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒同士の関わり合いが特に重要な学習への動機付けや協働学習、学校でしか実施できない実習等を重点的に取り扱い指導する。

② 学習活動の重点化に当たっては、家庭等との連携などを図るとともに、学校の授業以外の場での児童生徒の学習状況を適切に把握することが重要である。その際、児童生徒の学習状況に応じて必要な場合には個別の指導を行う。

③ 感染が一旦収束しても再度感染者が増加する等の事態も想定されることから、再度の休業により教育課程の実施に支障が生じる事態に備え、家庭におけるICT環境整備の状況に配慮しつつ、あらゆる機会にICTを最大限に活用できるよう取り組む。

各校では、これらの趣旨を踏まえ、それぞれの実情を勘案しながら、創意工夫に取り組んでいただいております。

さらに、学習指導要領改訂のキーワードである「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」などについて、各校では、移行期間中の取組はもとより、新しい教育課程の編成に向けた準備も、校内研修などの実施を通じて、進めておられることと思います。

特に「カリキュラム・マネジメント」については、校長先生だけで行うものではなく、各先生方も主体的に教育課程の編成に参画していくことが重要になります。「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面である、「①教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列する。」「②PDCA サイクルを確立する。」「③人的・物的資源等を効率的に組み合わせる。」を意識し、授業改善や教育活動の質の向上につなげていただきたいと思います。

教育委員会といたしましては、引き続き、大阪市立中学校教育研究会との緊密な連携を図ると共に、研修会や説明会等を通して、各校が新学習指導要領への完全移行がスムーズに行うことができるよう、支援してまいります。また、生徒への『学びの保障』をふまえ、ICT機器の整備充実を速やかに図るとともに、先生方がICT機器等を活用した学習活動など、「新しい授業様式」に対応していくため、研修や研究のさらなる推進に努めてまいります。

最後になりましたが、大阪市立中学校教育研究会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、教員の研究活動を活性化する取組を通して、「自ら学ぶ力」を育み、創造性豊かな個性あふれる子どもたちの育成をお願いいたしまして、私のご挨拶といたします。



新たな教育研究の創造を！

大阪市内中学校教育研究会

会 長 井 寄 芳 春（横堤中学校）

会員の皆さまには、平素より、大阪市内中学校教育研究会の活動に、ひとかたならぬご尽力を賜り、誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

本研究会は、昭和 22 年に創設されました。73 年に及ぶ歴史の中で、研究主題は社会からの要請とともに変遷しているものの、実践を通して、子どもたちの成長や発達を支え、促していくという目的については一貫しております。長年にわたる本研究会の実践研究の蓄積は、本市の貴重な財産となっています。あらためて先輩方のご努力に敬意を表したいと思います。

さて、本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大を予防するための臨時休業が続きました。各学校では、この期間においても家庭学習課題の作成や配布、登校日や分散登校に向けての準備、消毒作業や時間割の編成など、様々な業務に追われました。

再開後の学校においては、「新しい生活様式」のもと、感染症への警戒を続けつつ、子どもたちへの心理的なケアや学びの保障を確実に進めていくことが求められています。年度当初に策定した教育課程も再編成を余儀なくされ、土曜授業や学校行事の縮減等を通じた授業時数の確保、オンライン学習への準備など、新たな課題に直面しています。

また、本年度は教科書の採択が行われました。3 年間の移行期間を経て、令和 3 年度より、新学習指導要領の全面実施となります。移行期間に取り組んできた研究を生かしながら、それらを継続・発展させ、新たな教育課程を開発していくことが要請されています。

学習指導要領の方向性は、「社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む『社会に開かれた教育課程の実現』」とされています。教育活動を通して育成すべき「資質・能力」を明らかにし、単元・題材や授業（指導・評価）を改善していくことが求められています。

このように、自校の子どもたちの状況、保護者、地域の実態を踏まえながら、「学びを保障すること」と、未来に求められる「資質・能力を育むこと」を同時に進めていかなければなりません。子どもたちの「今」と「未来」に責任を持つ教育活動のあり方が問われています。

このような観点から、令和 2 年度の研究主題を「よりよい未来の創り手となる資質・能力の育成—学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して—」といたしました。「子どもたちにつけたい力とは何か」という教育の原点に立ち返り、「学びの質」を高めるための教育活動のあり方についての実践研究を進めてまいりたいと考えます。

カリキュラムは、「子どもの学びの総体」を意味します。これからの教育研究では、子どもたちの学びの事実を軸に、「カリキュラム」という全体的・総括的な視点と「指導・評価」という個別的・具体的な視点の双方を深く関連づけて構想し、展開していくことが重要になっていくものと考えます。「教科等を横断した学び」や「小中が一貫した学び」「多様な教育資源やネットワークを生かした学び」など、学校の内と外が豊かにつながり、連携・協働して学びをデザインしていくことが研究の土台になっていくものと推察します。

現在、社会は極めて困難な状況の中にあります。学校においても問題解決が日常化、高度化するからこそ、創意あふれる教育研究の価値が改めて問い直されていくのではないのでしょうか。本来、教育研究と教育活動は相即不離の関係にあります。本研究会の果たすべき役割は極めて大きいといえるでしょう。

今後とも、本研究会の歴史に学びつつ、会員の皆さまとともに、着実に歩み続けてまいりたいと存じます。ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新 部 長 の あ い さ つ

理 科 部

「科学的な思考力」を育む

渡 邊 哲 朗（茨 田 中）

いわゆる「科学的な思考力」は、自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する力です。

小学校低学年までの子どもたちはよく「なんで、な

んで」と質問します。その不思議な事象に対する興味を自ら解き明かすことの楽しみに変えることは、理科教育の大きな目的の一つです。

「科学的な思考力」は理科の世界だけでなく、日常でも様々な場面で必要な力であり、中学校卒業までにその素地を身につけられる理科教育でありたいと考え

ています。

今年度はコロナ禍の中、例年のように理科部員が一堂に会し研究討議をすることはできませんが、より良

い授業づくりの一助となりますよう研究の歩みを進めてまいります。全市研等へのご参加よろしく願います。

技術・家庭部

「いのち輝く未来社会の実現をめざした深い学びの創造」

山 口 博 功 (真 住 中)

いよいよ来年度から新学習指導要領がスタートします。技術・家庭部では、生徒が身近な生活や技術に興味をもち、実習活動を通して習得した知識や技能が、生活の自立につながるように授業づくりを組み立てています。また、家庭や地域社会との連携を大切にし、学校における学習と家庭や社会における実践とのつながりを大切にしたい題材を設定し、資質・能力の育成を育むことや他者と関わる力の育成をめざしています。

本年度の研究内容として、技術分野では「プログラミング」と家庭分野では「高齢者」を取りあげ、どちらも新設の学習内容として設定されています。技術・家庭科は、もともとアクティブラーニングをベースにした教科で、先人の知識から学ぶことや他者と協働する活動など対話的な学びがあげられます。いのち輝く未来社会の実現をめざし、生徒の見方・考え方を働かせた「深い学び」をこれからも追求してまいります。

生活指導部

「生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制の研究」

屋 島 豊 市 (十 三 中)

令和 2 年度の研究発表会は、10月14日 (水) の全市発表会と同日開催することとなりました。例年、生徒指導主事をはじめ、学校における生活指導の中心となっている先生方にご参加いただき、研究発表を実施してきました。しかし、新規採用者等10年未満の若手教員が多数をしめるようになり、校内における生活指導について、新たな悩みや指導の難しさが表面化することが分かってきました。そんな課題に改めて向き合い、『温故知新』(その生活指導に心はあるのか)をテーマに、現場の具体的な事案に焦点を当て協議を深めたい

と思います。

講演会では

『NPO 法人 NIWA 相談室 代表 丹羽 豊 様』からお話を伺います。

現代の学校教育活動における大きな課題となっている不登校に焦点をあて、保護者の悲壮な叫び、先生方の苦悩を少しでも軽減させるべく、培ってきた支援方法について、教育現場に大いに役に立つご講演となっております。よろしくお願いいたします。

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」を育む教育メディアの研究

田 村 敬 子 (松 虫 中)

教育メディア部は、学校図書館教育、放送・視聴覚教育の部門に分かれて研究活動を行っています。

学校図書館教育部門では、各中学校の学校図書館担当者を中心に、図書館の活用や読書活動の活性化を図るために、学校間の情報交換や研究活動を進めています。また、放送・視聴覚部門では、生徒の放送活動を進める中で、各種コンテストに積極的に参加し、放送・視聴覚を通じた表現の方法を学び、磨くための研究と

活動を行っています。本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、研修や発表の機会が例年より少なくなっていますが、読書感想文や読書感想画のコンクール、放送教育研究会全国大会、放送コンテストなどが今後予定されています。

全市研究発表会では、四天王寺大学 山田幸和先生より「生徒が読書好きになる味見読書」というテーマでご講演いただく予定です。

新ブロック委員長のあいさつ

＝第2ブロック＝

「研究発表会について」

委員長 東 義 孝（茨田北中）

ご存じのとおり、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、「ブロック研究発表会」は原則として中止となりました。十月に予定されている「全市研究発表会」は実施する方向で進められていますが、今後もしばらくは「新しい日常」「新しい生活様式」が続くと予想される中で、研究発表会の持ち方について一考する必要があるのではないかと考えます。（全市に向けては各研究部でいろいろと対策を練られているか

と思います）

また、教育ブロックが8ブロック制から4ブロック制となり「ブロック研究発表会」の規模も非常に大きくなります。今後「ブロック研究発表会」か「全市研究発表会」かのどちらかに一本化して、研究の力を一つに集中させたほうがよいのではないかという意見も、決して極論ではないような気がします。皆さんはどうお考えになりますか。

＝第3ブロック＝

「子ども達の『学びを止めない』ための教育活動の創造」

委員長 鍋 谷 賀都緒（難波中）

今年度のブロック研究発表会は新型コロナウイルス感染症にかかる諸般の事情により中止となりました。また、学校の臨時休業を受け、オンライン授業に関して「平等性」と「環境整備」をキーワードに様々な議論がなされる中、各校においても組織運営上に関わる課題、子ども達の学力保障に関わる課題が山積みしていることかと思えます。

先行きが不透明な中、子ども達の「学びを止めない」ために、10月の全市研究発表会に向け、教科・領域

において、オンライン会議のツールを活用した研究活動の在り方を模索しています。このような未曾有の国難の中であるからこそ、我々の「研究を止めない」活動とその成果を共有し、これからの実践や令和3年度からの新学習指導要領の全面実施に向け、各校での今後の実践に活かしていただけることを期待するとともに、各校でご尽力いただいている先生方、専門委員の皆様、ご支援いただいております大阪市教育局、教育センターの皆様にもお礼申し上げます。

＝第4ブロック＝

「コロナを共に乗り越えた後には…」

委員長 北 恵（新巽中）

今年度は、新型コロナの影響で各校とも教育活動にご苦労されていることと思います。中でも「学びの保障」と「行事の精選」。そして「こどもの安全・安心」。

このコロナ禍において学校運営を円滑に行うには、教員の知恵を絞り合い、力を合わせて一枚岩となることが最も重要であると考えています。各校において、この時期を共に乗り越えた後には、子どもの安全・安心にしっかり配慮し、学びの保障の大切さについて真

に理解する、さらに頼もしい教員集団ができあがっていることと想像します。

今年度については、ブロック教育研究会がなされない分、全市教育研究発表会に参加されたり、各校における教科会等をこれまで以上に積極的に開催していただくなどして、ますます自己研鑽に励んでいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

本部だより

令和 2 年度 大阪市立中学校教育研究会全体会

5月27日(水)に紙面上で実施しました。

研究主題

「よりよい未来社会の創り手となる資質・能力の育成」

～学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して～

全市研究発表会 10月14日(水)開催

《事業の種類》

- ① 学校を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進
- ② 研究部・ブロック委員会の研究活動の深化・充実
- ③ 全市研究発表会の推進と研究・研修活動の充実
- ④ 「中教研会報」・「研究の歩み」の内容の充実、研究活動の動向や成果の伝達
- ⑤ 教育委員会・教育センター・校長会・小学校教育研究会等、関係団体との連携

《当面の課題》

- ① 新学習指導要領に基づく教育課程のあり方についての研究
- ② 学校再開後の教育課程の編成と基礎学力の充実
- ③ 資質・能力の向上を促す、指導・評価方法の工夫・改善についての研究
- ④ ICTを効果的に活用した教育実践の研究
- ⑤ いじめ・不登校・問題行動の研究
- ⑥ 各研究部・各ブロック・各学校における研究体制の整備
- ⑦ 小中が連携、一貫した教育についての研究
- ⑧ 各種研修・研究会への参加を通しての教職員の相互研鑽・職能開発
- ⑨ その他教育上の諸問題の研究

評議員会報告

第1回 5月27日(水)

紙面上で実施

- (1) 令和元年度 事業報告
- (2) 令和元年度 会計決算報告
- (3) 令和元年度 会計監査報告
- (4) 令和2年度 事業計画並びに予算案
- (5) その他
 - ① 役員選出について
 - ② 専門委員会での協議事項
 - ③ 今後の評議員会の日程について 等

第2回 6月10日(水)

16時～ 於：大阪市教育センター

- (1) 令和2元年度 予算案について
- (2) ブロック研究発表会中止・全市研究発表会について
- (3) 会報、研究集録の作成について
- (4) 研修計画について
- (5) その他
 - ① 令和2年度 役員・専門委員一覧表(途中経過)について
 - ② 令和2年度 部門別研究主題について
 - ③ 令和2年度 ブロック別研究発表会中止について
 - ④ 令和2年度～4年度 全国・近畿大会予定表について

第3回 7月6日(月)

15時～ 於：大阪市教育センター

〈会計説明会〉

- (1) 令和2年度 予算配分について
- (2) 事業予算、予算執行について
- (3) 資金移管書・受入書、金銭出納簿、配付予算精算書について
- (4) 資金移管日時等について
- (5) その他

〈評議員会〉

- (1) 全市研究発表会について
- (2) その他
 - ① 令和2年度 役員・専門委員一覧表について
 - ② 令和2年度～4年度 全国・近畿大会予定表について
 - ③ 令和2年度 部門別研究主題について
 - ④ 中教研会報No.135号の原稿作成について

第4回 8月31日(月)

16時～ 於：大阪市教育センター

- (1) 全市研究発表会【10月14日(水)】について
- (2) 研修計画について
 - ① 全体研修会【11月12日(木)】
 - ② 評議員研修会【1月29日(金)】
- (3) 研究集録『研究の歩み』、『会報』の作成について
- (4) 小中一貫教育委員会の開催中止について
- (5) その他
 - ① 会計事務連絡
 - ② ホームページについて

令和 2 年度 部門別研究主題

No.	部 門	研 究 主 題
1	国 語	「『生きる力』としての国語力の育成」 －自分の思いや考えを深める言語活動の充実－
2	社 会	「持続可能な社会の形成者として、社会的な見方・考え方を深める社会科学習」
3	数 学	「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」
4	理 科	「主体的な対話を通し、未来を担う科学的な思考・表現力を育む理科教育」
5	音 楽	「未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造」 －主体的・対話的で深い学びの実現に向けて－
6	美 術	「社会とつながる美術教育をめざして」 －未来を切り拓く子どもたちの育成－
7	保 健 体 育	「学習意欲を高める協働的深い学びの創造」 －学びの質を高めるために－
8	技術・家庭	「いのち輝く未来社会を実現（創造）する技術・家庭科教育」 －深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践－
9	英 語	「英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」 －5領域のコミュニケーション能力を総合的に養う－
10	道 徳	「多面的・多角的な視点で、考え議論する道徳教育の創造」 －想像力を豊かにする発問の工夫－
11	特 別 活 動	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」
12	生 活 指 導	「生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する」
13	特別支援教育	「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい、生きる力を育む教育をめざして」
14	保 健 養 護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」
15	情 報 技 術	「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして」 －新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立－
16	教育メディア	「『生きる力』と『感動する心』をはぐくむ教育メディアの研究」 －放送・視聴覚・図書館教育を通して－
17	教 育 課 題	「未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成」

令和 2 年度 役員・評議員

令和 2 年度、役員・評議員が下記のとおり決まりました。（敬称 略）

【大阪市教育委員会】

初等・中学校教育担当	総括指導主事	田 中 淳
大阪市教育センター	指導主事	細 谷 典 史

【本 部 役 員】

会 長	井 寄 芳 春（横 堤）
副 会 長	藤 本 睦 子（田 島）
同	坂 本 政 隆（緑）
同	松 井 信 次（矢 田 西）
書 記	上 田 健 二（大 池）
会 計	渡 辺 慶 人（木 津）
会 計 監 査	北 川 一 雄（天 王 寺）
同	小 西 絵 美（横 堤）

【本部役割分担一覧】

● 全市研究発表会、 ブロック研究発表会の調整 等	（藤 本）
● 企画立案、研究の歩み、会報の編集、 HP担当 等	（坂 本）
● 研修計画、教育課程（言語活動）、 小中一貫教育担当 等	（松 井）
● 名簿作成、議事録作成、 案内状発送、報告書作成 等	（上 田）
● 会計、予算、事業報告書作成、 決算報告書作成 等	（渡 辺）
● 会計監査、会場準備、資料配布 等	（北川・小西）

【部 長】

1	国 語	池 尻 一 郎（井 高 野）
2	社 会	鈴 木 慶 彦（野 田）
3	数 学	高 橋 哲 也（東）
4	理 科	渡 邊 哲 朗（茨 田）
5	音 楽	有 田 伸一朗（大 淀）
6	美 術	石 川 文 子（宮 原）
7	保健体育	山 岡 伸 一（三 国）
8	技術・家庭	山 口 博 功（真 住）
9	英 語	井戸本 崇 志（喜 連）
10	道 徳	安 藤 幸 人（東 陽）
11	特別活動	進 藤 文 代（白 鷺）
12	生活指導	屋 島 豊 市（十 三）
13	特別支援教育	柿 花 正 信（梅 南）
14	保健養護	吉 田 直 子（新 豊 崎）
15	情報技術	近 藤 正 宏（本 庄）
16	教育メディア	田 村 敬 子（松 虫）
17	教育課題	西 本 晃（築 港）

【ブロック委員長・副委員長】

第1ブロック委員長	土 屋 雅（大 桐）
第1ブロック副委員長	吉 本 博 志（市 岡 東）
第2ブロック委員長	東 義 孝（茨 田 北）
第2ブロック副委員長	辰 巳 千佳子（旭 陽）
第3ブロック委員長	鍋 谷 賀都緒（難 波）
第3ブロック副委員長	二 井 敦 子（東我孫子）
第4ブロック委員長	北 惠（新 巽）
第4ブロック副委員長	高 島 裕 二（阪 南）

令和 2 年度 教育研究会予算

（令和 2 年 7 月 6 日 現在）

1. 歳 入

（単位：円）

項 目	令和 2 年度 予 算 額
会 費	1,900,000（見込み）
補 助 金	※200,000
繰 越 金	2,797,946
預 金 利 息	0
合 計	4,897,946

2. 歳 出

（単位：円）

項 目	令和 2 年度 予 算 額
本 部 事 業 費	2,722,938
研究部事業費	1,695,008
ブロック事業費	480,000
合 計	4,897,946

※日本教育公務員弘済会研究助成金

令和 2 年 度 研 究 発 表 会

10 月 14 日 (水) 15:00 ~ 17:00

部 門	研 究 主 題	内 容	会 場
1. 国 語	「『生きる力』としての 国語力の育成」 ー 自分の思いや考えを深める 言語活動の充実 ー	今年度は研究発表は行いません。研究の日としてください。	各中学校
2. 社 会	「持続可能な社会の形成者として、 社会的な見方・考え方を 深める社会科学習」 (学力向上《授業デザインや カリキュラム構築のための研究》)	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ・授 業 説 明 天王寺中 大 島 翔 太 ・公 開 授 業 (ビデオ) ・歴史的分野 「律令国家の形成 ー聖徳太子の国づくりー」 天王寺中 大 島 翔 太 ・研究協議またはアンケート ・講 演 龍谷大学法学部 准教授 中 本 和 彦 様	オンラインによる配信を各校で視聴してください。 15:00開始 各校Teamsでの視聴(IDは1つ)をお願いします。
3. 数 学	「未来を創造する数学 の主體的・対話的で 深い学びをめざして」	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ・公 開 授 業 (オンライン) 1 年 「データの活用」 佃 中 玉 川 智 行 佃 中 橋 本 裕 生 2 年 「連立方程式の利用」 蒲 生 中 竹 久 幸 志 天 満 中 野 崎 智 亨 1 年 「比例・反比例の利用」 夕陽丘中 永 安 仁 詩 瓜 破 中 大 迫 裕 也 ・全 体 会 (オンライン) 「新しい学習指導要領の完全実施に向けて」 ご講演・指導助言 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 文部科学省 教科調査官 水 谷 尚 人 様 もと、数学部長・大阪市立中学校長・教育センター首席指導主事 坂 恵津子 様 大阪市教育センター 指導主事 細 谷 典 史 様	オンラインによる配信を各校で視聴してください。 授 業 14:00開始予定 全 体 会 15:10開始予定 各校Teamsでの視聴(IDは1つ)をお願いします。
4. 理 科	「主體的な対話を通し、 未来を担う科学的な思考・表現力を育む理科教育」	・研 究 発 表 録画による公開授業 南 中 森 尾 豊 ・研 究 協 議 (各会場ごとに) ・あ い さ つ (各会場に分かれるため文章にて) 大阪市教育委員会	南中学校 他十数校 調 整 中 15:00開始 理科部員のみ参加
5. 音 楽	「未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造」 ー主體的・対話的で深い 学びの実現に向けてー	・研 究 発 表 ◇ 歌唱研究班 南港南中 沖 正 樹 ◇ 器楽(創作)研究班 八 阪 中 乾 正 義 ◇ 鑑賞(文楽)研究班 桜 宮 中 川 西 孝 亮 ◇ I C T 研究班 阿倍野中 瀧 口 弘 美 ・質 疑 応 答 ・研 究 協 議 ・指 導 講 評 大阪教育大学特任教授 田 中 龍 三 様 (器楽・創作 領域) 大阪市教育センター 指導主事 安 藤 寛 様 (歌唱 領域) 大阪市教育委員会 指導主事 今 村 友 美 様 (I C T 領域) 大阪市教育委員会 指導主事 出 石 智佳子 様 (鑑賞・文楽 領域)	大 淀 中 15:00開始 音楽部員のみ参加

6. 美 術	「社会とつながる 美術教育をめざして」 ～未来を切り拓く子どもたちの育成～	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ◦ 研 究 発 表 「ぼくたちができること」 緑 中 松 田 咲 「メッセージポスター作り ～伝えるデザイン～」 東生野中 尾 上 睦 美 ◦ 研 究 協 議 ◦ あ い さ つ 大阪市教育センター 指導主事 當 銘 真衣子 様	宮 原 中 15:00開始 美術部員 のみ参加
7. 保 健 体 育	「学習意欲を高める協働的深い学びの創造」 －学びの質を高めるために－	今年度は研究発表は行いません。研究の日としてください。	各中学校
8. 技 術 ・ 家 庭	「いのち輝く未来社会を実現(創造)する技術・家庭科教育」 ～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～	◦ 研 究 授 業 (学習指導案等を配信) ・技術分野 D 情報の技術 計測・制御のプログラミングによる問題解決 お掃除ロボットプログラミング ～ビュートレーサを用いた計測・制御学習の工夫～ 東我孫子中 米 澤 和 善 ◦ 研 究 発 表 (発表内容及び資料等を配信) ・家庭分野 A 家族・家庭生活 高齢者の気持ちに寄り添った関わりのできる生徒の育成 ～ほっこり会話でつながる社会～ 旧 7 ブロック家庭分野担当教員	各中学校 10月13日午後 SKIPで配信
9. 英 語	「英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」 －5領域のコミュニケーション能力を総合的に養う－	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ◦ 講 演 「『もう一度中学生をやりたい』と大学生に言われた『生徒も教師も楽しく力のつく授業』」 上智大学 非常勤講師 北 原 延 晃 様 ◦ 質 疑 応 答 ◦ あ い さ つ	阿倍野区 民センター 14:45開始 英語部員 のみ参加
10. 道 徳	「多面的・多角的な視点で、 考え議論する道徳教育の創造」 －想像力を豊かにする 発問の工夫－	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ◦ 道徳部部長あいさつ ◦ 授 業 報 告 授業者より(以前の授業の感想等) 東 陽 中 加治馬 諒 ◦ 班 別 研 究 協 議 ◦ 指 導 講 評 大阪市教育センター教育指導員 二 上 和 正 様 大阪市教育センター教育指導員 宮 脇 賢 治 様 ◦ 副部長あいさつ	東 陽 中 15:00開始 定員100名
11. 特 別 活 動	「生徒一人ひとりが主体的 に生きる特別活動の創造」	学校活性化事業「がんばる先生支援」(研究支援) 研究発表会 ◦ 研 究 発 表 1. キャリア教育 キャリア教育ご講演 ～学校活性化事業「がんばる先生支援」グループ研究B～ 「子どもたちの生き方を育成するキャリア・パスポートの活用法」 「キャリア教育リーフレットづくり」 「令和2年度 日本キャリア教育学会 第42回 研究大会報告」 講演者 夢みらい工房 代表 NPO法人JAE所属 角 野 綾 子 様 (認定キャリア教育コーディネーター) 大阪市立白鷺中学校 青 木 信 一 指導教諭 (認定キャリア教育カウンセラー) 2. 生徒会活動 東大阪市立中学校生徒会交流会実践報告 「ONE TEAM 東大阪市立中学校生徒会 25」 発表者 東大阪市立布施中学校 中 西 孝 仁 教諭 東大阪市立意岐部中学校 八 田 普 江 教諭	大阪市教 育センター 研修室 4 (スタジオ) 14:50開始 定員62名

12. 生活指導	「生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する」	。講演 演題 「不登校について」 ～見守る・寄り添うとは～ 講 師 NPO 法人 NIWA 相談室 代表 丹 羽 豊 様 。研究発表 「温故知新」 ～そのマニュアルに心はあるのか～ 東 中 西 垣 一 範 。質疑応答 。指導助言 。閉会あいさつ 大阪市教育委員会	クレオ大阪 東ホール 14:00開始 定員180名
13. 特別支援教育	「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい、生きる力を育む教育をめざして」	。講演 「発達障がいと医療：最近の知見を含めて（仮題）」 講 師 明星大学発達支援研究センター 教授 小 野 次 朗 様 ※講師による講演と指導	クレオ大阪 中央ホール 14:30開始 各校からの参加人数を最大4名までとさせていただきます。
14. 保健養護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」	。旧第 8 ブロック共同研究 「学校内における救急体制を考える ～アクションカードを活用して～」 阪 南 中 高 田 江 梨 子 日本橋中 巽 詩 織 阿倍野中 矢 田 泉 。研究協議 。指導講習 大阪市教育委員会 指導主事 中 井 美 紀 様	大阪市教育センター 講 堂 15:00開始 保健養護部員のみ参加
15. 情報技術	「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして」 ～ 新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立 ～	。研究発表 時間割の作成・調整に役立つシステムと活用方法の紹介 新東淀中 増 田 卓 三 友 渕 中 山 崎 真 史	大阪市教育センター 5階 端末第一実習室・講義室 15:00開始 端末室18名 講義室27名
16. 教育メディア	「『生きる力』と『感動する心』をはぐくむ教育メディアの研究」 ～放送・視聴覚・図書館教育を通して～	。講演 「生徒が読書好きになる味見読書」 講 師 四天王寺大学 非常勤講師 山 田 幸 和 様 。ワークショップ 味見読書 体験 。研究協議 。あいさつ	我孫子南中 15:00開始 定員50名
17. 教育課題	「未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成」	。講演 「大阪の学校が目指してきたもの」 講 師 大阪大学大学院 教授 志 水 宏 吉 様	大阪市教育センター 研修室 5 15:00開始 定員72名